

市民ワークショップまとめ（2024年9月8日(日) みんなで語ろう「本のまち明石」のこれから）

- ① 本のまち明石で「こんなことをやってみたい／参加したい」「必要な／あるといいな」と思うこと（ご意見は原文をもとに一部追記・修正し、市でカテゴリー分けしています）

《誰でも本に手が届く環境》

■図書館の利便性

- ・本の返却場所の増設
- ・公的な施設だけでも、本の返却場所を共通に
- ・コミセンで本の返却だけでなく、図書館の本の貸出も
- ・駅で本が返せたらいいな・・・
- ・駅で本を受け取り、返却できたら便利
- ・まち協とかコミセンで借りれたらいいなあ
- ・子育て支援センターと、絵本データを連携してほしい
- ・図書館までの送迎
- ・子どもの一時預かり
- ・冷蔵ロッカーサービス
- ・気軽に開催できるイベントスペース
- ・コンシェルジュをおく
- ・不足のない学習コーナー(150→300)

■本のある場所の充実

- ・本がある場所と読む場所・空間をもっと増やす
- ・学校の近くにボックスポット(こども向け)
- ・本がもっと近くにほしい(清水)
- ・全校区に小学生が自力で行ける本のある居場所
- ・図書館から遠い地域にボックスポットや図書室があったらよい(移動図書館は時間制限あり)
- ・高丘(大久保)エリアにボックスポットや本の場所が少ないので増えてほしい
- ・高丘地区に地域の図書室やボックスポットを(図書館から遠い地域)
- ・小学校コミセン 毎日子どもに開放
- ・市立図書館地域館(大久保地区)
- ・市立図書館地域館(西明石地区)

■移動図書館の活用

- ・子どもたちの下校時間に合わせた移動図書館(気軽にに行けるように)
- ・移動図書館が家の近くに来てほしい
- ・明石公園に移動図書館を呼んで、読み聞かせタイム(放課後／未就学児向け)

■ユニバーサル

- ・読書バリアフリーに関する講習会
- ・手話で絵本の読み聞かせ
- ・市民図書館のユニバーサルルームを多様な障害者が利用できるようにするといひ
- ・文字が大きい本(ご年配の方が読めるように)
- ・ボックスポットでデジター図書を置いてほしい

■本の充実

- ・保育所絵本の充実
- ・子どもがひまになる時間に読める本を学校の玄関に
- ・若い人が本に親しむために漫画コーナーを設置してはどうか(今外国では漫画ブーム)
- ・良い本やロングセラーがなくならないようにしてほしい
- ・もうすこしレベルの高い洋書を学校においてほしい
- ・漫画や電子書籍にも市民権がほしい！
- ・(※これらも読書の対象という認識が根付いてほしい)

《人とつながる/交流》

■つながる機会づくり

- ・コミュニティ
- ・様々な人が集う楽しいイベント
- ・ブックカフェ(本をキーワードに会話するルール)
- ・年齢を問わない交流の場
- ・老人から、子どもたちと一緒に交流しながら本を読んだり話し合う場を持ちたい
- ・1冊の本をみんなで話し合いたい
- ・お話し(読書会) 本を通して人とつながる
- ・年代別(子ども・青年・大人)読書会
- ・いろいろな立場の人の本の紹介
- ・編み物カフェを図書館に
- ・ボードゲーム交流会

■つながるための場所

- ・図書館が居場所になる(心地よい場)
- ・図書館が交流・出会いの場 公民館との融合
- ・高齢者も小さい子も集まれる(おしゃべりできる)場所
- ・おしゃべりスペース
- ・図書館にフィーカ(お茶をする)エリアを作る(図書館)
- ・カフェスペース おしゃべりOK

《本のある場所の活性化や連携》

■ボックスポットの活用

- ・ボックスポットスタンプラリー
- ・ボックスポットでビブリオトーク(本の紹介)
- ・くすのん文庫(魚住のこども夢文庫)に平日午後もっと子どもたちが来れるとよい

■学校図書館との連携など

- ・学校図書館の活性化
- ・学校図書館の地域開放(放課後や長期休み)
- ・学校図書館選手権
- ・1校1人司書がいてほしい/毎日いてほしい
- ・学校図書館が自習室に使えるといいな
- ・学校図書館に本を貸してほしい
- ・学校図書館でおはなし会

■こんな場所/スペースがあればいいな

- ・だれでも気軽に立ち寄れるボックスポット
- ・リアル古書店
- ・まちなかで古本カフェ 公園とか
- ・24時間BOOK BAR(ブックバー)
- ・本屋に座って過ごせるスペースを作る
- ・海を見ながら本を読む
- ・こたつやロフトがある

■本の循環

- ・本の交換会
- ・不要になった図書の交換会、持ち寄り会
- ・FreeBook(だれでも置いて持っていける本棚)

《本に親しむ機会づくり》

■誰もが本に親しむ

- ・読書を純粹に楽しんでいい(読書＝勉強だけではない)という意識
- ・本の楽しさを知らない人知ってもらいたい
- ・大人のためのおはなし会(ストーリーテリング)
- ・今は図書館だけが、老人会などで紙芝居したい
- ・介護施設での読み聞かせ(紙芝居/えほん/手遊び)
- ・お年寄り多いのに本に触れる機会少なそう・・・
- ・本を10,000冊読破したい(今は8,000冊なので)

■子どもに本の楽しさを伝える

- ・小学生、未就学児に本の手触り、電子書籍でなく”本”で読む楽しさを知ってほしい
- ・下校時間に合わせた図書タイム
- ・全小学校での本読み聞かせタイム 各学校で読む人がいなければ是非行きたい
- ・兄弟姉妹での読み聞かせ(小学校、幼、保)
- ・小学生のうちに本に親しむ為、始業前に1冊読む習慣をつくる
- ・中学生でも遅くない、本の読み聞かせで本を好きになってもらう
- ・小学校で読み聞かせや紙芝居を通して本を好きになってもらう
- ・こども食堂などで読み聞かせをしたい
- ・両親共稼ぎ・シングルマザーの子ども→斉登校前に地域の方と学校図書館で朝読書・読み聞かせ
- ・読み聞かせ(家庭向き)

■本に関連したイベント

- ・ブックフェス(大きなイベント)
- ・明石公園で読み聞かせイベント
- ・明石公園とかでブックフェア
- ・子どもの読み聞かせイベント
- ・文化博物館で読み聞かせイベント(文化博物館は敷居が高い・暗い・入りづらいなどのイメージあるので)
- ・明石の小学生が選ぶ本総選挙
- ・読書感想文大賞(魚住地域で)
- ・ビブリオバトルもって開催
- ・ビブリオンアター 図書館で上演
- ・パネルシアター
- ・好きなこと(食べ歩き)×図書館・本・ワークショップ
- ・絵本に出てくるお菓子づくり
- ・「本」をテーマにしたアナログゲーム会 例:みんなで本を持ち寄って
- ・本のラジオ局放送(子ども/おとな)
- ・本の業者を招くイベント

《学びや情報を得る》

■本を通じて学ぶ

- ・図書館で夏休み子ども科学あそび教室(体験して本にもつなげる)
- ・朗読習いたい
- ・本の修理講座
- ・明石で本にまつわる神社(菅原道真)とか
- ・文章教室

■知りたい情報にアクセスできる

- ・専門書の朗読・音声
- ・本→検索(例:編み物の本→編み物教室)
- ・専門書解説交流会
- ・育児相談 兼 読書サポート

■市からの情報発信

- ・本に関する研修会などの情報をもっと積極的に発信してほしい
- ・色々な年代の人に対して異なる形で今の取組を伝える
- ・「本のまち明石」の情報紙、情報サイト
- ・図書館の使い方を広く知ってもらいたい
- ・情報データの公開と共有
- ・明石まちなかボックスポットマップの設置場所の啓発このマップをたくさんの人に見てもらいたい
- ・図書館の利用方法がたくさんあることを知ってもらう(例:勉強、子どもの居場所)

《本のまちを支える人の活性化》

■ボランティア

- ・読み聞かせサークル/ボランティアが市内のあちこちに
- ・ブックパパ/ブックお兄さん
- ・ボランティアスタッフ(緑のおじさんのような)
- ・(緑のおじさん＝スクールガード、シニアボランティア)
- ・読み聞かせの講習会
- ・読み聞かせボランティアの学習会や交流会
- ・小学校図書ボランティアの交流会・研修会
- ・読み聞かせの講習会がもっとあるとよい
- ・図書ボランティアの交流会・研修会
- ・「はとの会」として読み聞かせをしたい
- ・(「はとの会」=ボランティアグループ)

■創り手

- ・小・中学生向けクリエイターコンクール
- ・クリエイター支援WEBベース
- ・クリエイターの支援

市民ワークショップまとめ（2024年9月8日(日) みんなで語ろう「本のまち明石」のこれから）

② これからの「本のまち明石」はこんなまち(大事にしたいこと、広がってほしい取り組み、キーワードなど)
(ご意見は原文をもとに一部追記・修正し、市でカテゴリー分けしています)

●誰でも本に手が届く

- ・市立図書館から遠い地域の人が徒歩で行けるスポット(学校図書館など)
- ・ブックスポットへのアクセスのしやすさを高める
- ・本へのアクセスの地域差をなくす(学校図書館の活用)
- ・ユニバーサルルームを視覚障害者だけでなく、多様なハンデを持つ人が使えるように
- ・本のまちビジョン検討委員会に視覚障害当事者として参加したい

●コミュニティ/場づくり

- ・高齢者から子どもまで、本を通して交流する場
- ・図書館やブックスポットが、人を支えたりつなげたりできる場に
- ・本があるだけでなく、読むための居場所がある
- ・居場所・コミュニティづくり

●本がある場所の利便性やモノの充実

- ・各スポットの選書(人気優先だけでは残らない良書も出てくる。誰が選書するかも重要)
- ・幼・保・小・中・中のモノ(本)・ヒトの充実
- ・本(図書館)利用の利便性を高めたい(駅で返却、子ども預かりなど)
- ・まちなかに返却不要の本棚があるといい(不要な本の流通)
- ・利便性/快適さ

●ブックスポットのあり方など

- ・各ブックスポットでテーマを絞ったり特化させて、公共施設との違いをつくる
- ・移動図書館とブックスポットの連携やコラボなど

●本を通じて楽しむ

- ・おしゃべりから始まる可能性(編み物、お茶など)楽しい気持ちになる
- ・勉強のためでなく、楽しいから話す、伝えたくなる(※本を楽しむことで交流が生まれる)
- ・楽しい図書館づくり、フィーリングを大切にする
- ・盛り上がり おしゃべり解禁
- ・リアルな本の良さ
- ・本という世界の入口をもっと広げよう(ゲーム、マンガなど)
- ・読み聞かせ、スタンプラリー、公園でのイベント
- ・海+本(海を見ながら読書するなど、明石らしさを大切にする)

●情報発信

- ・本に関わる取り組み・情報の発信
- ・図書館サービスについて、できることを集約してみんなにももっと知ってもらう
- ・公共図書館ももっと行きたくなくなるような工夫が大事(広報、活用方法)

●仕組みづくり

- ・コアとなる図書館(5カ所)が情報や人をつなぐ役割を担う
- ・図書館司書がコーディネーターとしての役割を担う(人や場所同士をつなげる、利用者の話を聞いて求める情報や活動につなげるなど)
- ・図書ボランティアの交流や研修
- ・読み聞かせなどを「やりたい人」と「やってほしい人」をつなぐ仕組みをつくる

